

## 参考資料3

異なる帯水層間の地下水移流調査

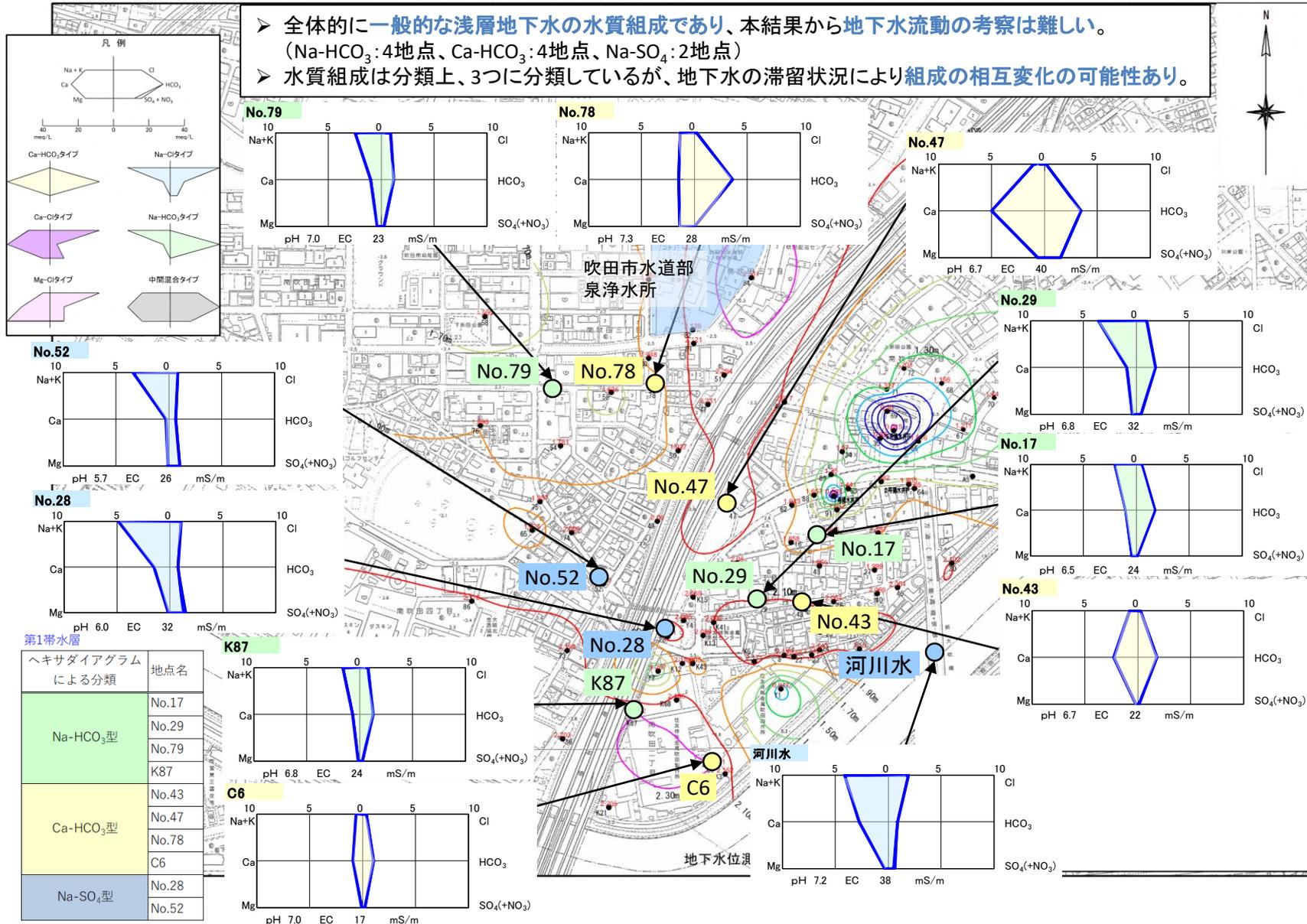
(令和2年度専門家会議資料より抜粋)

# ヘキサダイアグラム (第1帯水層)

## 【ヘキサダイアグラム】

- ・主要溶存イオンを陰イオンと陽イオンに分けて、それぞれの濃度を当量値 (meq/L) で示し、図示したもの
- ・地図上にヘキサダイアグラムを配置することで、一帯の水質組成を把握することが可能
- ・数値だけでは把握しにくい水の流れや、温泉水や河川水などの地下水の混入の有無を知る手がかりになる

- 全体的に**一般的な浅層地下水の水質組成**であり、本結果から**地下水流動の考察は難しい**。  
(Na-HCO<sub>3</sub>:4地点、Ca-HCO<sub>3</sub>:4地点、Na-SO<sub>4</sub>:2地点)
- 水質組成は分類上、3つに分類しているが、地下水の滞留状況により**組成の相互変化の可能性あり**。

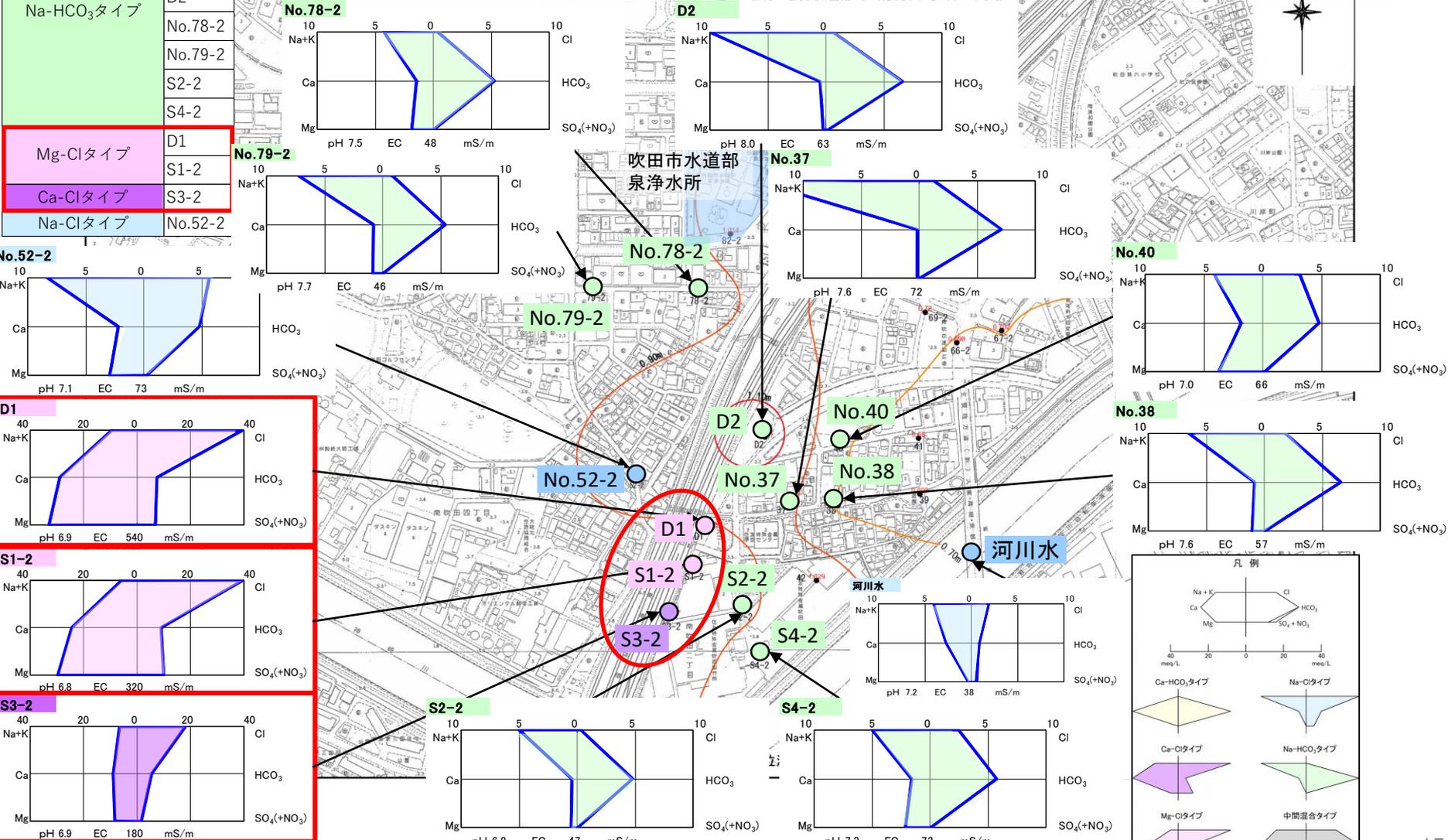


# ヘキサダイアグラム (第2帯水層)

第2帯水層

ヘキサダイアグラムによる分類	地点名
Na-HCO <sub>3</sub> タイプ	No.40
	No.37
	No.38
	D2
	No.78-2
	No.79-2
Mg-Clタイプ	D1
	S1-2
Ca-Clタイプ	S3-2
Na-Clタイプ	No.52-2

- ▶ 主としてNa-HCO<sub>3</sub> (12地点中8地点)
- ▶ D1,S1-2,S3-2は、温泉水や鉱泉水にみられるMg-Cl,Ca-Cl型 (溶存イオン濃度は他と比べると高く、酸化還元電位は他と比べて低い)
- ▶ No.52-2は河川水と同一のNa-Cl型であるが、濃度が高く、水質組成はNo.79-2,No.78-2と類似
- ▶ 第1帯水層の水質組成と類似する地点は認められない(ヘキサダイアグラムの型や溶存イオン濃度)



注) D1,S1-2,S3-2のヘキサダイアグラムは、他の地点とスケールが異なる(最大40meq/L)